

■ 狭山市防災ガイドブックとは

狭山市防災ガイドブックは、市内で想定される地震、風水害（洪水、土砂災害、内水）に対して、市民の皆様にごりから備えていただくために作成しました。

このガイドブックには、地震の震度や洪水、土砂災害、危険箇所を表示したハザードマップを掲載するとともに、市内で災害発生した場合の情報の入手方法や、とるべき行動、日ごりからの備えなど、普段から知っておくべき防災情報を網羅しています。このガイドブックを活用して、いつ襲ってくるかわからない災害に備えましょう。

■ 地震ハザードマップ

大きな地震が発生すると、家具が転倒したり、建物が倒壊したりするなどの被害が生じるおそれがあります。阪神・淡路大震災では、亡くなった方の8割以上が住宅等の倒壊による圧死が原因とされています。

この地震ハザードマップには、狭山市で最も震度が大きくなると予想される「立川断層帯（南）」を震源とする地震の震度を表示するとともに、地震時に避難することのできる避難所の位置と土砂災害警戒区域の位置も示しました。

自分の住んでいる場所の震度や危険度を確認し、いつ起こるかわからない地震に備えましょう。

● ハザードマップに示した地震

平成25年度に埼玉県が実施した地震被害想定調査では、市内でゆれが最も大きくなるのは「立川断層帯（南）」の地震とされています。

これを受けて、市では独自に被害予想調査を実施し、「立川断層帯（南）」を震源とする地震動を予想し、市内の詳細な土地条件を反映させた、50mメッシュごとのゆれやすさを算出しました。



● 想定地震と被害の程度

狭山市では、震度5強から震度6弱のゆれが想定されています。地震によりどの程度の被害が生じるおそれがあるか、確認しておきましょう。

下表の色と次ページのゆれやすさマップ（全域版）の色は、その土地のゆれやすさを示しています。

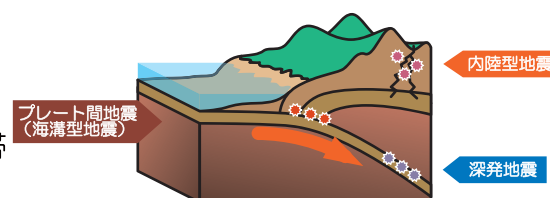
震度	被害の程度
5 強	<ul style="list-style-type: none"> 物につかまらなると歩くことが難しい 補強していないブロック塀が倒れることがある
6 弱	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが困難になる 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある

がけ崩れにも注意！

地震時は、がけ崩れのおそれもあります。急ながけ沿いから、素早く離れましょう。がけ崩れは、震度5弱以上で発生の可能性が高まります。

● 活断層とは

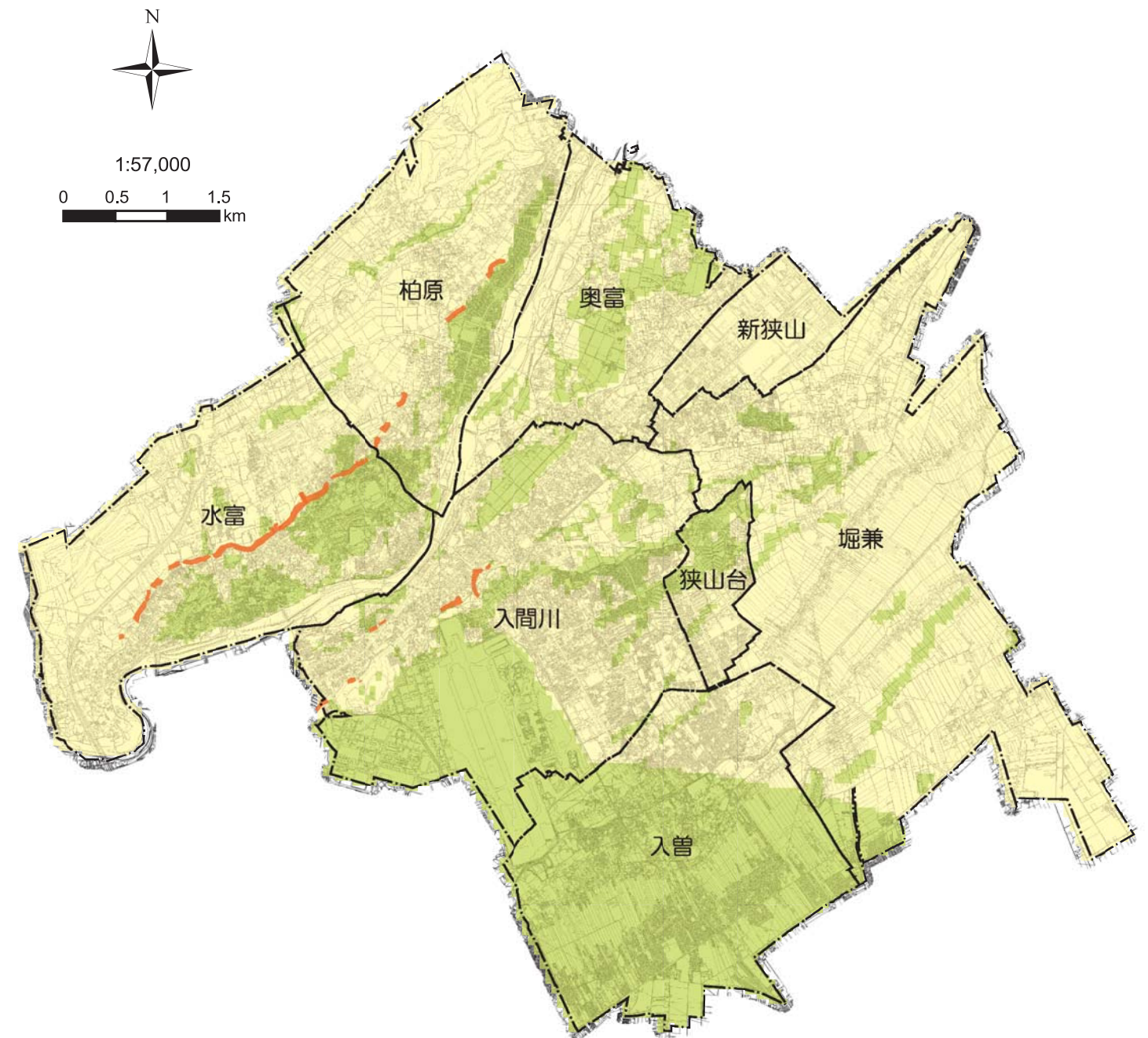
地震には、大きく分けてプレートとプレートの境界で発生する海溝型地震とプレート内部で発生する内陸型地震に分けられます。内陸型地震はプレート内部にひび割れやズレが生じて発生し、断層型の地震とも呼ばれています。このハザードマップの想定地震である立川断層帯の地震は、今後30年以内の地震発生確率が0.5~2%とされています。



■ ゆれやすさマップ

狭山市の震度は、震度5強から震度6弱と推定されています。埋め立てや盛り土などの人工改変地や入間川の作用で形成されたはん濫平野などでは、比較的高い震度が予想されています。

各地区の震度については、3ページから8ページを参照してください。



凡 例	
■	土砂災害警戒区域
■	震度5強
■	震度6弱